

# 礼拝さいこう

## 「礼拝」と「賛美」の学びあいから、あらたにされて

### Index

- |     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 1)  | 巻頭言 「震災の中の『こども礼拝』」                      | 鈴木牧人 (姪浜)    |
| 2)  | 「自然災害等の危機で歌われる賛美歌」の課題をいただいて             | 教会音楽室長 江原美歌子 |
| 3)  | 賛美歌のことばを「さいこう」する                        | 宇都宮毅 (岐阜)    |
| 4)  | 「主にあって一つ」 教皇ミサに参列して                     | 藤井秀一 (花小金井)  |
| 5)  | 「礼拝が“ヤバイ”」 中部連合 青少年学び会報告                | 秋山義也 (瑞穂)    |
| 6)  | 専門委員会議の取り組みから                           | 江原美歌子        |
| 7)  | 「新しい歌を歌いましょう」 『新生讃美歌』 「特別委員会対象アンケート」 から |              |
| 8)  | パブロ・ソサ氏の遺したもの (『新生讃美歌』 251番作者)          | 山中臨在 (品川)    |
| 9)  | 賛美歌紹介 『新生讃美歌』 420番 「わがためいのちを」           | 小松澤恵 (大久保)   |
| 10) | 「礼拝音楽研修会をともに作りあげるプロセスから」                | 西脇慎一 (神戸)    |

### ～巻頭言～

## 「震災の中の『こども礼拝』」

鈴木牧人 (姪浜)

私が郡山コスモス通り教会の牧師をしていた時のことです。当時、教会には、我が家の息子を含め、子どもたちが数人来ていました。東日本大震災後、教会員は教会に残ることが多く、必然的に子どもたちも残ってもらうことになりました。午後は会堂脇の託児室で遊ぶこともしばしばありました。子どもたちが色々な遊びをする中で、ある時、「礼拝

ごっこ」を始めたのです。最初は真似事のような遊びでした。しかし、だんだんと趣向をこらすようになり、司会者や奏楽者、説教者などを立て、本格的な礼拝を行うようになりました。やがて、息子から「会堂で子ども礼拝をしたい」と言われ、私は大人代表として、子ども礼拝に一出席者として参加することになりました。目の前で、子どもたちが全

での奉仕を担って礼拝をしている様子に「これは『ごっこ』じゃない。『礼拝』だ」と思いました。私はそれまで「子ども礼拝」には、大人たちがお話しも奏楽もして、子どもたちがその礼拝に参加しているというイメージをもっていました。目の前で献げられている「子ども礼拝」は、そのような私のイメージが根底から覆されるものでした。子どもが慣れないながら、見様見真似で奉仕をしている姿に「微笑ましい」と思ったり、色々な粗が見えたりもしましたが、よくよく考えてみれば、自分たちが献げている礼拝も同じかも知れないと気づかされました。神様から見れば、自分たちが一生懸命献げている礼拝も、足りないところや未熟な部分をたくさん抱えているのだと思うのです。それでも、私たちが私たちに祈り、備え、献げ

ている礼拝を、神様は喜んで受け取ってくださっているのです。そのようなことを思いながら、この「子ども礼拝」に「礼拝の原点」を教えられる思いでした。

現在、連盟では、次期機構改革について話し合いがなされ、様々な課題が話し合われています。財政課題などひっ迫した課題の中、正直、大変だなと思うこともあるのですが、その中で、時折、「子ども礼拝」のことを思い出します。震災直後の本当に大変な中、外でまともに遊ぶこともできない状況で、子どもたちは、自分たちにできることを探しながら、誰から言われたわけでもなく、子ども礼拝を始めました。あの時の子どもたちを思い出し、励まされつつ、この厳しい状況の中で「今だからこそできること」を模索していきたいと思うのです。

## 「自然災害等の危機で歌われる賛美歌」の課題をいただいて

昨秋、日本キリスト教団出版局季刊誌『礼拝と音楽』No.184の特集「危機の中での賛美と祈り」で、「自然災害等の危機」のテーマで『新生讃美歌』賛美歌リストを挙げてほしいと依頼があり、賛美歌検討委員会でも検討していきました。選曲の中で、このテーマにおける賛美歌には様々な背景があることが共有されました。①災害の只中で歌う賛美歌、②被災地、被災者を覚えて寄り添い歌うもの、③災害の経験を通しての証しの歌、④神への信頼と信仰告白、⑤人災であることの悔い改めと環境の課題を歌う、等と幅広いアプローチから賛美歌が生まれているのです。

「危機の中での賛美」には、信仰における危機、罪にある「いたみ」を歌うものが『新生讃美歌』に多くありますが、「自然災害」の危機というテーマにこだわる中では、18番「心込めて主をたたえ」、73番「善き力にわれ囲まれ」119番「父なる神はいとつよき神」292番「安かれわが心よ」434番「愛のみ神にこそ」483番「主と共に歩む」567番「み神こそわが望み」570番「たとえばわたしが」の8曲以上は最終的に挙げることはできませんでした。この特集で各賛美歌集から出された賛美歌リストは、選曲にあたっての基準が様々であったことから、統一されたものではありませんでした。賛美歌の捉え方に幅があることに改めて気付かされます。賛美歌をさらに理解し、様々な状況や求めにあって相応しく用い、賛美していきたいと願わされています。（江原美歌子）

## 賛美歌のことばを「さいこう」する

### 「私たちは何を賛美しているのか？—賛美歌の言葉と信教の自由—」

宇都宮 毅（岐阜）

礼拝やいろいろなところで「賛美しましょう」と言われたとき、私たちは何も考えずに、歌ってはいないでしょうか。そこでは、皆さんは何を賛美し、何を告白しているのでしょうか。

牧師になって、ある教会の礼拝で会衆賛美をしているとき、ある賛美歌を歌わず、教会の信仰告白のある箇所になると唱えない人に出会ったことがありました。クリスチャンとしてどうなのか？と疑問に思いましたが、その方にとって「自分としては、その言葉を歌ったり、唱えることはできない」という信教の自由に立った行動であったのだと、今思い返しています。賛美しましょう、祈りましょうと言われたとき、私たちは思考を停止してはいないでしょうか。賛美歌はすべて私たちが共感できるものであるという思い込みはないでしょうか。賛美歌は、時代毎に、礼拝や伝道で用いられ、宣教論や宣教課題を受けて作られるものであり、それを歌い続けるにあたっては、本来は、言葉を吟味し、立ち止まり、今私はこの歌を歌えるのだろうか、祈れるのだろうかと再考しなければならないと思うのです。場合によっては、歌わない、祈らないということがあり得るのではないのでしょうか。

賛美は、雰囲気や酔い流されて歌うのではなく、神や人への告白がなされるものです、とりわけバプテストは、自らの言葉で告白をする群れです。そのような立ち方をしたために、バプテストの先達たちは、異端とされました。聖書を自ら読むことと同様に、賛美歌も自覚的に歌うのです。また賛美歌には、作られた状況が曲毎に存在しています。時代状況、作曲者、作詞者の置かれた状況など、聖書と同様、逐語霊感的な歌い方は、問題が生じる場合があります、賛美歌の歌い方によっては、言葉の問題性に気づかないことが起こるのです。

1941年7月、海軍省軍務局課長の平出英夫は、講演の中で「音楽は軍需品なり」との言葉を残しています。戦意高揚、国民の心情操作に用いられたのです。マインドコントロールするためにも、歌は使われ、その言葉の内実が問われない時、私たちは煽動されてしまうのです。

『新生讃美歌』328番「全能なる神」1節は、「全能なるおおみ神は 天地（あめつち）おさめたもう ものみな主をばたたえ みくりに歌をささぐ」という歌詞です。国家神道の方は、この歌詞の意味を、「全能なる天照大御神は 天地を統治し すべてのものがその神をたたえ 王の座に歌をささげる」と受け取られることでしょうか。その言葉の意味を吟味し、自分たちの告白として歌っていきたいと願わされます。

バプテストの礼拝の特徴は「会衆賛美」に表されており、私たちは、誰と、どこで、何を告白するのかを大切にしています。そこには、今の時代を生きる隣人たちと共感できる言葉が紡ぎ出され、自らが告白しなければなりません。そして国や制度、文化に流されるだけでなく、イエスの歩みを通して告白がなされる必要があります。私たちは、神に創造された命として、自らの命の言葉を語り、歌っていきたいと思います。

## 教皇ミサに参列して…

### 「主にあって一つ」

藤井秀一（花小金井）

11月25日（月）、来日したローマ教皇フランシスコが司式する東京ドームで開催された「教皇ミサ」に参加する機会をいただきました。教皇ミサのテーマは「すべてのいのちを守るため」で、神が愛し、創造したいのちを、だれも傷つけることなく、共に生きるために、わたしたちを平和で満たしてくださいと祈る「わたしたちの地球のための祈り」から始まりました。ほかにも宗教、宗派を超え、心をあわせて祈ることのできる平和の祈りの数々が、ラテン語、英語に留まらず、ハングル、中国語、ベトナム語、タガログ語など、原語と日本語とで交互に捧げられていきました。

ミサは「開祭」「ことばの典礼」「感謝の典礼」「閉祭」の四部構成です。「ことばの典礼」においてはマタイ6章25節～34節から教皇のメッセージがありました。「すべてのいのちを受け入れるとは、もろさ、さもしさ、矛盾やくだらなさ、愛するに価しないと思うもの、すべてそのまま引き受けるのです。」  
「教会は、傷ついた人を癒やし、和解と赦し

の道を常に示す、野戦病院となるのです」と語る教皇の言葉が耳に残っています。「感謝の典礼」においては、カトリック信徒のみ聖体拝領に与りますが、真摯にパンを頂く人々の姿を見ながら、わたし自身も主の晩餐に与る恵みに、もっと真摯に向き合いたいと思いました。

会衆賛美では、各国の賛美歌を原語（カタカナのルビ付き）で、何曲も歌っていきました。音楽は、伝統的なものから現代的なものまで様々でしたが、今でも私の心の中に残っている音楽は、ポップなアレンジの「大会テーマソング」です。ミッションスクールの学生オーケストラ、教会聖歌隊、コーラス、パイプオルガンが演奏する、力強くダイナミックな響きに心震えました。このような賛美を計画し準備された日本のカトリック教会の底力と柔軟性に感銘し、教派は違えど、わたしたちは主にあって一つであるのだと、深い喜びと平和を味わいつつ、東京ドームをあとにしました。

## 聖歌隊楽譜 新譜紹介 聖歌隊楽譜の新譜を2曲発行しました！

1月22日に紹介した19-1, 2に引き続き、『新生讃美歌』の中で親しまれている「神の平和」「キリストによるゆるしと贖い」が歌われる2曲の編曲です。礼拝、集会、証しの歌としてご活用ください。美しいハーモニーと流れるような伴奏は、会衆賛美の伴奏や、各声部を様々な楽器演奏で奏楽に用いることもできます。

### ● 19-3 新生讃美歌330番「み使いの歌はひびけり」（3声 SAT） 価格500円（10部）

作詞：W.D.Cornell、作曲：W.G.Cooper 編曲：十時節子

### ● 19-4 新生讃美歌476番「ゆるされて」（3声 SAT） 価格400円（10部）

作詞作曲：天野時生 編曲：十時節子

## 『礼拝が“ヤバい”』

秋山 義也（瑞穂）

### 「皆さん、次の礼拝に人を誘いたいですか？」



中道基夫氏（関西学院大学神学部教授、実践神学）の講演で、初めに出された問いかけです。皆さんはどう答えるでしょうか？

中部連合には、青少年学び会（有志）があります。連合から補助をいただき、今年度は「若者と礼拝」をテーマに、中道氏を講師に招き、40名程の参加者と学びました。（2/1、於：南名古屋教会）学び会のテキスト『関西学院大学神学部ブックレット6－若者とキリスト教』の中で、中道氏が同様のテーマで講演しており、それを受けて学びの機会を持ちました。

講演題は「礼拝が“ヤバい”」。若者が普段使っている言葉「ヤバい」と、（日本）教会の礼拝がこのままじゃ「ヤバい」んじゃないか？という意図で名づけられたタイトルのとおり、講演は刺激に満ちていました。礼拝の二つの類型「リタージカル・スタイル」（伝統型）と「コンテンポラリー・スタイル」（現代型）を、映像を交えて紹介いただき、それぞれの良さと課題が提示されました。自分の教会の礼拝は、今何を大切にしているのかを考えさせられました。説教中心型の伝統的な礼拝形式が決して悪いわけではありませんが、一方で会衆の参与をもっと引き出せないかと思われました。日本の教会の

特長に、宣教師から教わったことをずっと続け、変わらないことがあります。中道氏はドイツで留学時、メソジスト教会に仕えましたが、その際に若い人達にウェスレーの賛美歌の話をしたら、「それはおじいちゃん世代なら歌えます」と返答されたそうです。変わることに、新しいことを受け入れることに柔軟な海外の教会に比べ、日本の教会が同じことを続けてきたという特長をどう捉えるのか、比較から見える自己分析は興味深かったです。

（『礼拝改革試論』（越川弘英編著）を併せて読むと、「なぜ日本の礼拝は変わらないか？」が深まります。）

講演の中では祈りの言葉を考える時間もあり、画一化された言葉ではなく、もっと「今、ここに生きる私（たち）の言葉」で祈って見たらどう？という発想を与えられました。海外や若者が集う教会の真似をすればいいのではなく、各教会が真剣に礼拝を問うことで福音の力を再認識し、できることをしていきましょうと励ましをいただきました。隣人を心から誘うことができる礼拝（教会）に向けて、現状のヤバさを皆で共有し、実践を楽しんでいきたいと思われました。



## 専門委員会議の取り組みから

### 新生讃美歌



「教会音楽」「賛美歌検討」委員会議の新たな計画として「新しい賛美歌を紹介する」取り組みがあります。そのために、新しい賛美歌を実際に歌っていくことから始めています。

賛美歌検討委員会議の始まりは、2005年の「新生讃美歌フォーラム」で元編集委員でパ

ネリストの大谷レニー氏より「未来に向けて、今から『改訂』の準備を始めなければなりません。よりよい賛美歌集を作り、次世代に賛美を継承するために、継続して学んでいきましょう。」の投げかけに端を発しています。その後、室長の諮問委員会議として立ち上げられたのが2008年で、「新生讃美歌の評価」「賛美歌研究」「カスタマーサービス」を中心に活動を継続してきました。これまで、取り組みの「中間報告」「新生讃美歌アンケート」「賛美歌ことばのフォーラム」「新生讃美歌ブックレット」編集等、研究をはじめ、広場づくり、評価や対話から気づかされたことを様々な形で紹介してきました。

『新生讃美歌』は、礼拝や集会で用いられる歌集として活用されてきましたが、それだけでなく、「賛美」とは何か？を学びあう「テキスト」としての働きがあることが示されてきました。『新生讃美歌』が2003年に発行されて以来、多くの出来事に直面する中、今中長期の「和解のつとめに仕える」のテーマから、宣教と礼拝、賛美歌の再考が導かれてきました。

そしてこの間、賛美歌は停まることなく、新しく歌が次々に起こされています。どのよ

うな視点の賛美歌が新たに加えられてきたのかを検証し、また私たちの賛美とは何かを求めていきたいと願っています。そこで、両専門委員会議では、2020年度から新しい歌を歌うプロジェクトをはじめていきます。今、賛美歌の「ことば」に求められていること、今起こされている賛美歌の「ことば」に出会っていくためです。

2月25日の賛美歌検討委員会議では『新生讃美歌ブックレット』の中で紹介された「特別委員会アンケート」の「今後、賛美歌集で取り上げるべき「賛美歌」、内容やテーマ」の中から（右頁参照）、具体的にあげられた賛美歌を歌って行きました。

歌う中で感想として聞かれたことは、これらの賛美歌の問いかけ「あなたは？」（例：『讃美歌21』563番）を安易に歌えないというものでした。右にあげられている賛美歌は、歌うことを通して、私たちの中にどのような傷みがあるのか、この世にあってどのような苦難があるのか、そして、私はどこに立つのか？が問い直されるものです。これまでの賛美歌の定義、賛美歌とは何か？の枠が、宣教課題と共にさらに広がられています。

『新生讃美歌』の評価に加えて、新たに生まれている歌に出会いつつ、私たちの賛美とは？を考えていき、あらたな私たちの歌としていきたいと願っています。

## 新しい歌を歌いましょう

新しい歌を歌う取り組み(左記)にあたり、すでに投げかけられている『新生讃美歌ブックレット』の、「特別委員会対象『新生讃美歌』アンケート」、「今後、賛美歌集にとりあげるべき『賛美歌』、内容やテーマ」からご紹介します。

### 今後、賛美歌集にとりあげるべき「賛美歌」

『新生讃美歌ブックレット』 P30～33より

題名	賛美歌集	作詞者	特別委員会
We shall overcome	『讃美歌21』471番	スピリチュアル	部落問題
ここにわたしはいます	『讃美歌21』563番	Brian Wren	
ミルク世チュクラノウチスリティ	官邸前 ゴスペルを歌う会歌集	平良愛香	性差別問題
主につくられた私	『これもさんびか』 CD収録曲歌集 0509	平良愛香	
キリストは明日おいでになる	『讃美歌21』244番	Fred Kaan	ホームレス支援
新しい時をめざし	『讃美歌21』480番	E. B. Cardoso ?	
ここにわたしはいます	『讃美歌21』563番	Brian Wren	
だから今日希望がある	日本賛美歌学会小歌集 『おおなんといい恵みよ！』17a	F.J. Pagura	
今こそ主、求めよ	常盤台教会60周年記念賛美歌	福本峻平	障がい者と教会
ああ、美しい自然	『讃美歌21』427番	Feliciano	公害問題
わたしたちを生かす	『讃美歌21』426番	Brian Wren	
こすずめも、くじらも	『讃美歌21』425番	J.J. Vajda	
美しい大地は	『讃美歌21』424番	Elena Maquiso	
人がこの世界に	『讃美歌21』423番	Huub Oosterhuis	
絶望の中に主はよみがえる	『みんなで輝く日が来る』 アイオナ共同体賛美歌集 42番	John Bell	
みんなで輝く日が来る	『みんなで輝く日が来る』 アイオナ共同体賛美歌集 58番	John Bell	

上記は、「特別委員会対象アンケート」で具体的に挙げられた賛美歌(賛美歌集)をまとめたものです。表には入っていませんが、「靖国神社問題特別委員会」からは歌詞に含まれている課題として、賛美歌の中の「みいつ(御稜威)」の問題、「あまつみ神」が戦前天皇制特定用語であったことの指摘、とりあげられるべき内容としては、アジアをはじめとする「和解の福音」に立ち、侵略戦争に対する罪責告白等が要望として挙げられています。詳しくは『新生讃美歌ブックレット』P30～で紹介していますので、ご参考ください。

みなさまの教会や、教会音楽を学ぶ集い等で歌ってみませんか？ そして感想をお寄せください。あたらしい賛美歌(ことば)を歌うことで、何が生まれていくのか？に期待しています。

## パブロ・ソサ氏の遺したもの 『新生讃美歌』251番「恐れを捨て去り」作者

WCCホームページより

山中 臨在（品川）

<https://www.oikoumene.org/en/press-centre/news/wcc-mourns-the-passing-of-rev-pablo-sosa>



日本賛美歌学会大会2010来日講演

2020年1月11日、世界的なエキュメニカル運動の父と呼ばれたパブロ・ソサ氏が召天しました

た。85年の生涯、ソサは会衆賛美を豊かにすることに情熱を注ぎました。アメリカやドイツの4つの神学校で、神学や教会音楽を学び、アルゼンチンのメソジスト教会の牧師となってからも、作曲家や聖歌隊指揮者、また教師として積極的に礼拝音楽に取り組んできました。

ソサは、ラテンアメリカの民謡を積極的に賛美歌に取り入れました。社会のいたる所で暮らす人々の、喜びや悲しみ、或いは苦悩を感じ取り、彼らの生活に密着している文化的メロディーをもって人々の思いを主にに向かって歌うこと、また主への賛美を通して主からの希望をいただくことが大切であると考えたのです。更に、ポピュラー音楽とクラシック音楽の間に横たわる壁を取り除こうとする彼の働きを受け、

「礼拝音楽とはかくあるべき」という固定概念が人々の間から少しずつはがれていき、会衆賛美がより豊かなものとされていきました。やがて彼は、教派間に横たわっている壁の存在にも思いをはせるようになり、キリスト者として、互いの教派の神学を理解しそこから学ぶことを

しなければ、「あなたの隣人を愛せよ」と教えられたキリストの栄光を表すことにならないと考え、その後の生涯を通じて、エキュメニカルな活動に精力を注ぎました。ソサはWCC（世界教会協議会）の一員として教派を超えた賛美歌集の出版に取り組み、その中には、ラテンアメリカ音楽だけでなく世界中のさまざまな民謡のメロディーを取り入れた賛美歌が収められています。彼の友人たちが口をそろえて「ソサは人を喜んで歌わせる賜物があった」と言うその景には、「礼拝とは、すべての人が招かれている、キリストのお祭りだ」という彼の信念があったのでしょう。

『新生讃美歌』251番「恐れを捨て去り」はソサの作曲したものです。超教派の賛美歌集 *Cantico Nuevo* の出版に際して、同じくエキュメニカル運動に積極的であったアルゼンチンの牧師ニコラス・マルティネスによって作詞されたイースターの賛美歌です。「恐れを捨て去り涙をぬぐえ」という呼びかけから歌いだすこの賛美歌は、恐れを抱える私たち人間には主の復活の希望があることを力強く歌っています。

1月12日、ブエノスアイレスのメソジスト教会で行われたパブロ・ソサの葬儀の折、参列した人々は、彼が召された後も、世界中の人たちが隔てを超え、豊かな会衆賛美をささげることができるようにと祈りました。それはまた私たちの祈りでもあります。

### 『新生讃美歌』 420番 「わがためいのちを」

*I come with joy to meet my Lord*

小松澤 恵 (大久保)

20世紀後半に英語圏（おもに英米）で会衆賛美歌刷新の大きな動きが起こりました。その一つがHymn Explosionという運動です。現代の牧師の説教に呼応する現代における課題と質を兼ね備えた賛美歌が少ないとの議論が「ダンブレイン教会音楽・讃美歌協議会」（1962-1969）でなされ、新作賛美歌詞の創作と検討が始められました。教会の公の告白の言葉である賛美歌について、説教の言葉と同様の意味で深い神学的な反省の目が向けられたのです。『新生讃美歌』420番「わがためいのちを」もその流れの中で生まれた曲です。

この曲は、1968年にブライアン・レンが牧会していた教会で、「聖餐」に関する説教を締めくくるにあたって書かれたものです。

第1節は「わがためいのちを捨てたまいし」と一人称単数形が使われています。キリストが命をかけて私を愛して罪から救ってくださったその個々の喜びが歌われています。

それが2節では一人称複数形「われら」となり、違いを持つ一人ひとりがキリストのもとに集められて、キリストの体なるパンを分かち与えられていくことを通して、ひとつにさ

れていくことが歌われています。キリストがその肉を割かれ血を流して下さった十字架の救いの出来事を通して、隔ての壁が打ち砕かれて一つのキリストの体、つまり教会とされていくことが表現されているのです。

3節では、キリストの体なる教会の「われら」の喜びが歌われ、4節ではさらに、その「われらの喜び」に留まっているのではなく、「世にいで行き語り伝えん」と歌われます。

私たちはキリストの愛に出会って個人の「喜び」が与えられ、さらに他者と共に主の体なる教会に一つに結ばれ、「共に喜ぶ」豊かさをいただいています。そして、その喜びを教会の中に留めるのではなく、「世にいで行き賛美し伝えよう」との励ましを、この賛美歌を歌いつついただいきたいと願われます。

2月26日からイエス様の十字架の受難を覚え過ごす「受難節」がスタートしました。「神はその独り子を賜うほどに世を愛された。それは御子を信じる者が一人も滅びることなく、永遠の命を得るためである」（ヨハネ3：16）のみ言葉を黙想しつつ、その愛の深さを覚えながら、賛美を捧げてまいりましょう。

### 作詞者 ブライアン・レン Brian Wren (1936 - )

20世紀の賛美歌作家の中で、最もエネギルッシュな創作活動を展開している一人とされています。オックスフォード大学で学び、イギリス・ウェールズ会衆派の教会で按手を受け、ロンドン近郊の教会を牧会した後、神学者、詩人、賛美歌作家として活動を開始しました。1983年にアメリカに移住しコロンビア神学校の礼拝学の教授を務め、各地で教会音楽講習会などの指導者としても活躍しています。

# 礼拝音楽研修会をともに作りあげるプロセスから

西脇慎一（神戸）

「礼拝音楽研修会を関西で行いませんか？ これまでのような『全国版』ではなく、関西連合諸教会のニーズに合った地域密着のプログラムを一緒に作りませんか？」と教会音楽室から提案されたときに戸惑いに覚えたことは「果たして関西地方連合諸教会の礼拝に対するニーズとは何か」でした。そもそも私は、隣の教会がどのような礼拝式で主を礼拝しているか、礼拝の中で何を大切にしているかさえ知らなかったからです。そこで研修会を計画する上で、まずは連合諸教会・伝道所の声を聞いてみなければ始まらないと思い、アンケートを作成しました。質問は以下の通りです。

礼拝と音楽について学びたいことをお知らせください。

教会で行っている礼拝と音楽についての取り組みをお知らせください。

礼拝と音楽について教会で困っていることをお知らせください。

連合や近隣諸教会に礼拝と音楽について期待することがあればお知らせください。

36教会中20教会・伝道所の声をお聞きする中で私が気づいたことは、おおよそ私が予想していたような困窮と疲弊に喘ぐ声ではなく、むしろそれぞれの教会の中で既に独自の豊かな取り組みが行われているということでした。そしてそれぞれの取り組みを知るプロセスにこそ連帯の可能性があるということを感じたのです。そうであれば、むしろ自分たちの礼拝を分かち合い、知り合い、共に主を喜ぶ時を持つことが私たち連合諸教会・伝道所の出来事になるのではないかと考え、今回は「礼拝の学びと賛美フェスティバル」を計画しました。

残念ながら、新型コロナウイルスの流行に伴い今回の礼拝音楽研修会は延期となりましたが、これまでの準備や賛美フェスティバルに申し込みをしてくださった方々との出会いは、すでに私にとって大きな祝福と恵みの出来事となっています。パラダイム・シフトが出会いの中から起こされることを改めて感じています。

**2020年3月20日開催予定の「第14回礼拝音楽研修会（大阪）」は、新型コロナウイルス感染の影響を受けて、延期となりました。日程はあらためてお知らせいたします。**

## 教会音楽室からの呼びかけ

新型コロナウイルス感染の脅威にどう向き合っていくかの課題に日々直面させられており、感染の恐れや「集まること」「歌うこと」の自粛が、共に「礼拝」「賛美」することを阻む力となっています。私たちはどのように礼拝し、どのように何を賛美するのかの問いの中を歩んでいます。礼拝、賛美を捧げる中で取り組まれていること、集まることを見合わせる中、気づかされていること等、お寄せください。孤立化がますます進む中で、この対話が、諸教会・伝道所の働きを励まし合うものとなることを信じています。世界の人々の命が守られ、一日でも早い事態の収束を祈り願っています。